

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	86	実施計画番号	9
事務事業名	下水道の整備		
個別事業名		事業開始年度	昭和47年度
担当課名	管理課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	十和田市下水道条例 第1条 十和田市下水道整備基本計画	関連事務事業	
背景や経緯等	十和田市の公共下水道は昭和47年度に都市計画決定を受けて整備に着手しました。その後、農業集落排水事業等を実施しましたが、現在は公共下水道と浄化槽整備事業で、下水道整備を進めている。		
事務事業の目的	快適な住環境の整備と、湖や河川など公共用水域の水質保全に向け、下水道施設の整備を進める。		
実施状況	公共下水道は、上平地区及び東二十四番町地区を重点的に整備し、浄化槽整備事業では、40基の浄化槽を設置した。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	13	13	13
	活動日数(日)	243	243	243
	人件費(千円)	113,724	113,724	113,724
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	222	222	222
パートタイマー	人件費(千円)	1,732	1,732	1,732

【事業費の推移】

	23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)	722,828	430,647	613,900
うち一般財源			
うち国県支出金	299,585	181,717	259,100
うち地方債	385,300	211,600	326,800
うちその他	37,943	37,330	28,000

【指標】

活動指標	活動指標名①	水洗化率				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
	水洗化人口/人口	%	70.5	71.3	72.0	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
成果指標	成果指標名①	水洗化率				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
	水洗化人口/人口	%	目標値	72.0	72.0	72.0
			実績値	70.5	71.3	
			達成度(%)	97.9%	99.0%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	

十和田市事務事業評価シート

整理No	86
計画No	9

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由						
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行なうものとなっている。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。		下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行なうものとなっている。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4										
下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。												
下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行なうものとなっている。												
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2									
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数は年間目標の40基を維持している。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。		浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数は年間目標の40基を維持している。	
	成果向上の余地	0 / 6										
	限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。											
浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数は年間目標の40基を維持している。												
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2									
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2									
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、コスト削減には十分取り組んでいる。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、コスト削減には十分取り組んでいる。			
	コスト削減の余地	0 / 6										
	経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、コスト削減には十分取り組んでいる。											
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2									
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2									
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">整備をした市民から受益者負担金を頂いているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	1 / 4	整備をした市民から受益者負担金を頂いているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。			
	受益者負担適正化の余地	1 / 4										
整備をした市民から受益者負担金を頂いているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。												
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1									
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20					

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由 公共下水道は、計画に基づいて継続する。 浄化槽整備事業については、有効かつ必要な事業であり、今後も普及推進したい。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果 浄化槽整備事業については、普及促進のため単独助成事業を実施し設置基数の増加を図る。